

- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- 施工は必ず専門の工事業者の方が行なってください。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味



注意

- 取付けを誤った場合に、使用者などが中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号



ポイント

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。



- 取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。
- 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。



補足

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

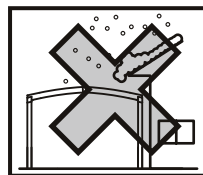
※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

＜施工の前に＞



注意

- 当製品は簡易型車庫です。物置・遊び場あるいは住居の一部等への転用を目的として、みだりに改造・変更をしないでください。
- 600タイプは、積雪（新雪）20cmを超えない地域に設置してください。
- 1500タイプは積雪（新雪）50cmを超えない地域に設置してください。
- 建物の屋根から落雪を直接受けない位置に設置してください。
- 強風地域、特に崖上、屋上、風の通り道上等の施工は避けてください。
- 施工場所に寸法的に正しく納まるかどうか確認してください。
- 給湯器や暖房機等の熱排気が製品内にこもるような場所に施工しないでください。排気による中毒のおそれがあります。
- 傾斜地に設置する場合は、低い場所の埋込み深さを確保してください。
- 雪がすべり落ちやすい屋根形状のため、1500タイプの場合隣地から最低50cm程度離して施工してください。また、施工する条件によってはさらに離して施工してください。



ポイント

- 給湯器や暖房機等の熱排気が製品に当たらないように施工してください。排気による塗装劣化・剥離（はくり）のおそれがあります。

<基礎工事について>

⚠ 注意

- 基礎部の埋込み深さは製品ごとに決めています。現場によって（軟弱な地盤等）基礎部のコンクリートの量（体積）を十分配慮してください。
- 寒冷地で凍上するおそれのある地域で使用する場合は、凍上線の下まで基礎を設けてください。強度低下の原因になります。
- 柱内の水抜きができるよう、基礎には必ずぐり石を敷き、柱と基礎の付け根に水抜き穴（φ6）をあけてください。柱内の水が凍結膨張し、柱が破損するおそれがあります。
- モルタルやコンクリート等が製品の表面に付着した場合は、速やかに拭取ってください。シミやムラ等の外観不良の原因になります。

🔑 ポイント

- モルタルやコンクリートには、塩分を含む砂（海砂）および塩素系強アルカリのコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤等）は使用しないでください。使用するとアルミ等の金属が腐食する原因になります。必要の場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。

<施工の際に>

⚠ 注意

- 「使用上の注意」ラベルを貼っている柱に縦樋を取付けると、表示が見えなくなります。縦樋を取付けない側に表示ラベルを向けてください。
- ボルト、ネジは当社指定品を指定本数使用し、ゆるまないように締付け固定してください。
- アルミ製品が亜鉛、ステンレス以外の金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
- 製品の改造や、指定箇所以外の穴加工はしないでください。
- 水濡れのおそれがありますので、指定の箇所にシーリングをしてください。
- シリコンシーリング材を使用する場合は、ポリカーボネート板のひび割れ等のおそれがありますので、当社指定の脱アルコール系シーリング材を使用してください。

シーリング材メーカー	品名および品番
信越化学工業	シーラント72
東芝シリコン	トスシール380
トーレシリコン	SE960

🔑 ポイント

- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・作業服および保護具（保護帽、安全带、眼、手、足の保護具）を正しく使用してください。
 - ・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
 - ・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
 - ・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
- 製品についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は、補修塗料で補修してください。

<施工の後に>

⚠ 注意

- ☐ ボルト、ネジを増し締めしてください。

🔑 ポイント

- ☐ 取扱説明書は施主様にお渡しください。

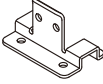
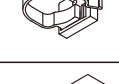
INDEX

1	梱包明細表	4
2	基本寸法と各部名称	7
	1. 各部名称	7
	2. 基本寸法	9
3	基本の施工 方法	13
	1. 基礎の施工	13
	2. 柱と梁の取付け	15
	3. ワイド棟木・母屋・後枠の取付け	16
	4. 側枠・アーチの取付け	17
	5. 屋根パネルの取付け	18
	6. 縦樋の取付け	20
4	縦連棟および延長タイプの施工 方法	21
	1. 基礎の施工	21
	2. 本体の連結	26
	3. 落雪カバーの取付け オプション	28

1 梱包明細表

※施工の前に梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。

[1] 部品セット

名 称	略 図	員 数					
		600タイプ ワイド			1500タイプ ワイド		
		50型	57型	14型	50型	56型	12型
後枠コーナーキャップR		2	2	—	2	2	—
後枠コーナーキャップL		2	2	—	2	2	—
ブラケットカバーR		4	4	2	6	6	2
ブラケットカバーL		4	4	2	6	6	2
ワイド棟木取付金具		4	4	2	6	6	2
ワイド棟木キャップ		2	2	—	2	2	—
アンカー棒		4	4	2	6	6	2
ブチルシーリング材		1	1	1	1	1	1
穴隠しシール		40(48)	40(48)	20(24)	60(72)	60(72)	20(24)
雨樋アタッチメント		2	2	2	2	2	2
雨樋穴ふさぎキャップ		2	2	2	2	2	2
アタッチメントパッキン		4	4	4	4	4	4
ドレンエルボ 40φ用		2	2	2	2	2	2
92° エルボ φ40用		4	4	4	4	4	4
でんでん		6	6	6	6	6	6
パネル緩衝材		48(56)	48(64)	16	48(64)	56(72)	16

【1】部品セット(つづき)

名 称	略 図	員 数					
		600タイプ ワイド			1500タイプ ワイド		
		50型	57型	14型	50型	56型	12型
後枠取付金具		4	4	2	6	6	2
接着剤		1	1	1	1	1	1
【1-1】 M8×20六角ボルト (平座金・緩み止め付)		24	24	12	36	36	12
【1-2】 φ5×55サラタッピンネジ		8	8	4	13	13	4
【1-3】 φ4×10ワッシャーヘッドネジ		292(348)	320(382)	96(114)	344(410)	372(444)	96(114)
【1-4】 φ4×13ナベドリルネジ		94(112)	105(124)	28(32)	105(124)	116(136)	28(32)
取付説明書	—	1	1	—	1	1	—
取扱説明書	—	—	—	—	1	1	—

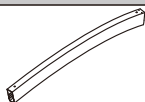
※()内は間口60型の場合です。

【2】主柱セット

名 称	略 図	員 数				
		2本入	ロング・(凍上標準) 2本入	(凍上ロング) 2本入	H28 1本入	(凍上H28) 1本入
標準柱 H18		2	—	—	—	—
ロング柱 H23・(凍上標準柱)		—	2	—	—	—
(凍上ロング柱 H23)		—	—	2	—	—
ロング柱 H28		—	—	—	1	—
(凍上ロング柱 H28)		—	—	—	—	1
取扱説明書	—	1(—)	1(—)	—	1(—)	—

※()内は1500タイプのみの設定です。

【3】梁セット

名 称	略 図	員 数	
		2本入	1本入
梁		2	1

【4】ブラケットセット

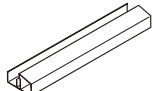
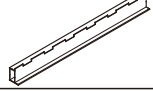
名 称	略 図	員 数
		2本入
ブラケット		2

【5】竖樋セット

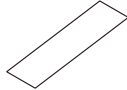
名 称	略 図	員 数	
		L3100	L1000
竖樋 L=3100 φ40		1	—
竖樋 L=1000 φ40		—	1

【6】幅セット ※ () は1500タイプの呼称です。 【7】長さセット ※ () は1500タイプの呼称です。

名 称	略 図	員 数		
		50型	57型 (50型)	(56型)
側枠R		1	1	1
側枠L		1	1	1
側枠カバーR		1	1	1
側枠カバーL		1	1	1
アーチ		6	7	8
アーチカバー		6	7	8

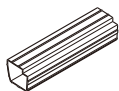
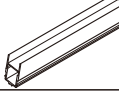
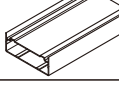
名 称	略 図	員 数					
		600・1500タイプワイド共通					
		50型		57型(56型)		14型(12型)	
		3本入	4本入	3本入	4本入	3本入	4本入
後枠		1	1	1	1	1	1
母屋		3	4	3	4	3	4
縦樋 φ40		1	1	1	1	—	—

【8】屋根材セット

名 称	略 図	員 数	
		3枚入	4枚入
屋根パネル		3	4

【9】連棟用幅セット ※ () は1500タイプの呼称です。 【11】連棟部材セット

名 称	略 図	員 数			
		50型	57型 (50型)	(56型)	14型 (12型)
アーチ		7	8	9	2
アーチカバー		7	8	9	2

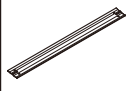
名 称	略 図	員 数	
		48~54用	60用
後枠スリーブ		2	2
母屋スリーブ		6	8
ワイド棟木スリーブ		1	1
ワイド棟木止水パッキン		1	1
【11-1】φ4×13 ナベドリルネジ		82	98

【10】ワイド棟木セット ※ () は1500タイプの呼称です。

名 称	略 図	員 数		
		50型	57型(56型)	14型(12型)
ワイド棟木		1	1	1

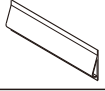
【12】屋根材ホルダーセット

オプション

名 称	略 図	員 数					
		600タイプ			1500タイプ		
		50型	57型	14型	50型	56型	12型
屋根材ホルダー		7	8	2	8	9	2
屋根材ホルダースペーサー		18	18	6	20	20	6
【12-1】φ5×13 ナベドリルネジ		19	19	6	22	22	6
取付説明書	—	1	1	—	1	1	—

【13】落雪カバーセット

オプション

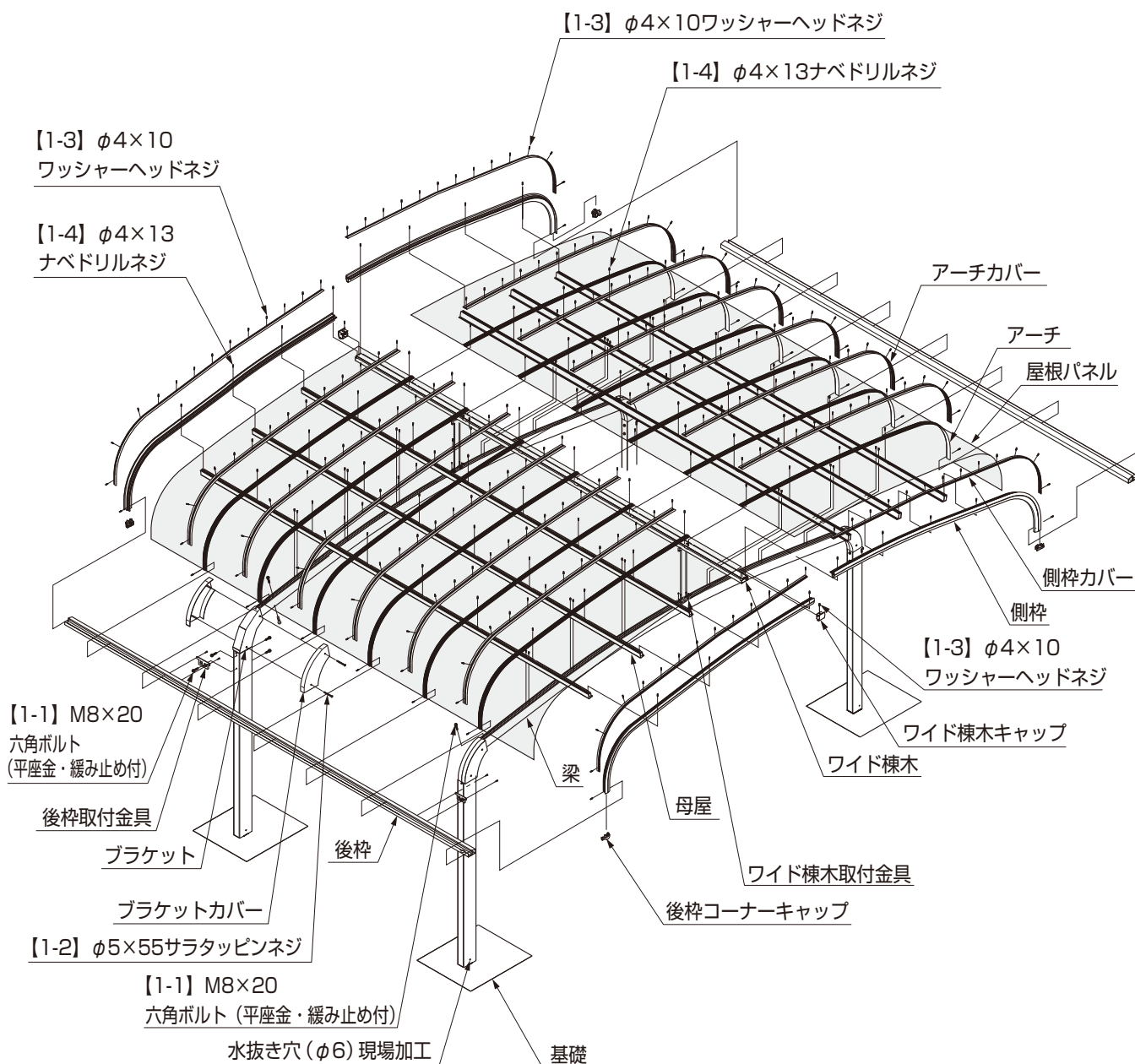
名 称	略 図	員 数		
		50型	57型(56型)	14型(12型)
落雪カバー		1	1	1
落雪カバーキャップ		2	2	1
スペーサー		4	4	2
【13-1】φ4×13 ナベドリルネジ		21	21	4

※ () は1500タイプの呼称です。

2 基本寸法と各部名称

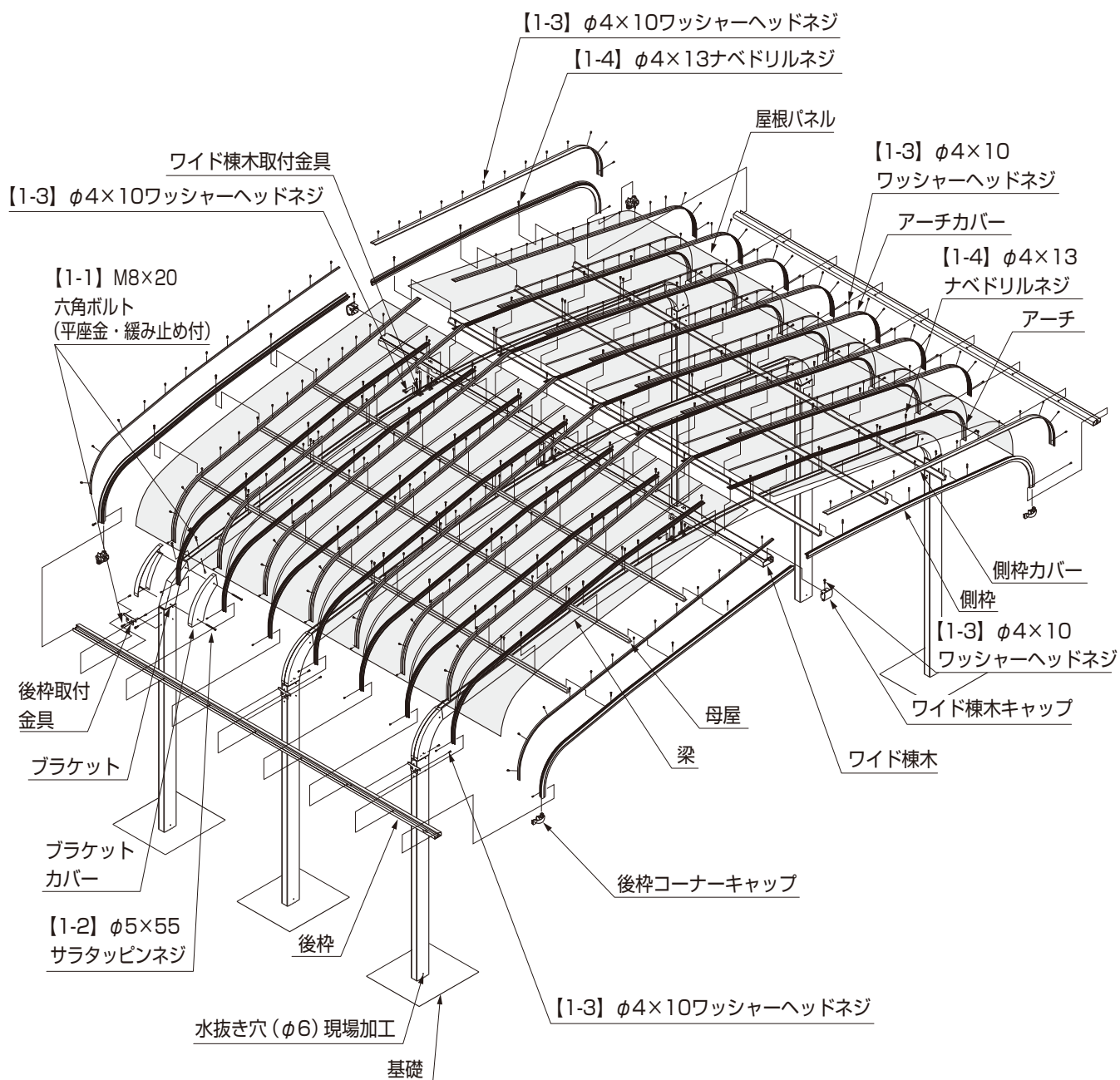
1. 各部名称

1-1 600タイプ ワイド



1. つづき

1-2 1500タイプ ワイド



※図は標準柱仕様を示します。()はロング柱23仕様、[]はロング柱28仕様を示します。
※構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

2. 基本寸法

2-1 600タイプ 間口

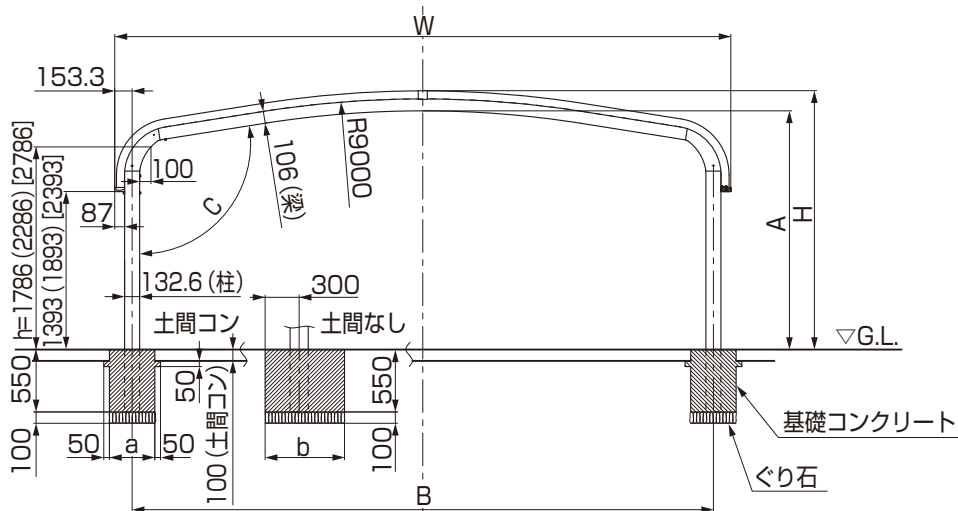


表2-1

間口	W	A	H	B	C	a	b
48	4826	2056 (2556) [3056]	2245 (2745) [3245]	4519	99°	400	700
54	5432	2104 (2604) [3104]	2293 (2793) [3293]	5125	99°	400	700
60	6053	2200 (2700) [3200]	2389 (2889) [3389]	5746	102°	500	800

2-2 1500タイプ 間口

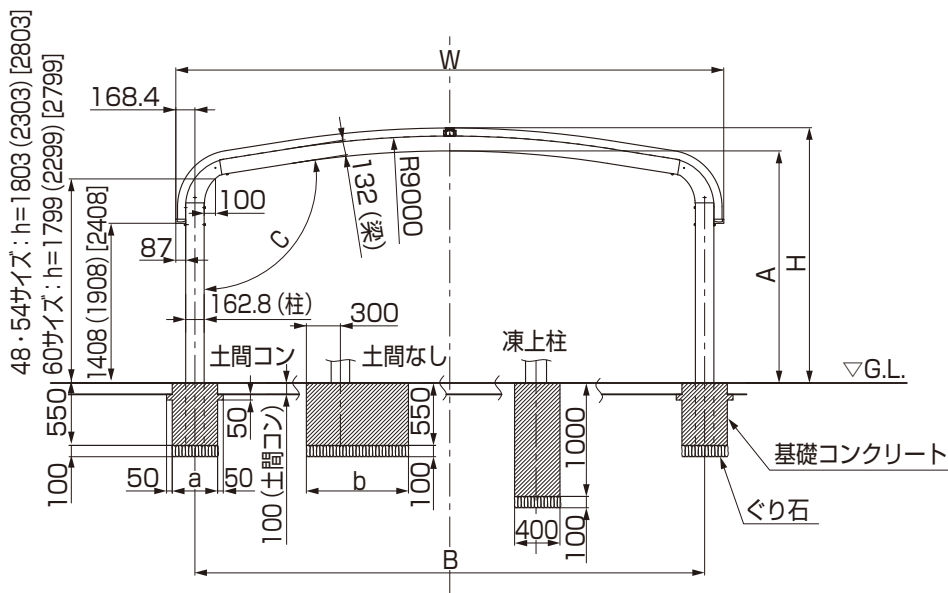


表2-2

間口	W	A	H	B	C	a	b
48	4830	2046 (2546) [3046]	2261 (2761) [3261]	4493	99°	400	900
54	5436	2094 (2594) [3094]	2308 (2808) [3308]	5099	99°	400	900
60	6058	2190 (2690) [3190]	2405 (2905) [3405]	5721	102°	500	1000

 補足

- 凍上標準柱の高さ(H)は、標準の+50mmになります。

2. つづき

2-3 奥行き50・57タイプ (600タイプ) ※柱芯々寸法は±100mm以内にしてください。
※〈 〉は奥行き57型を示します。

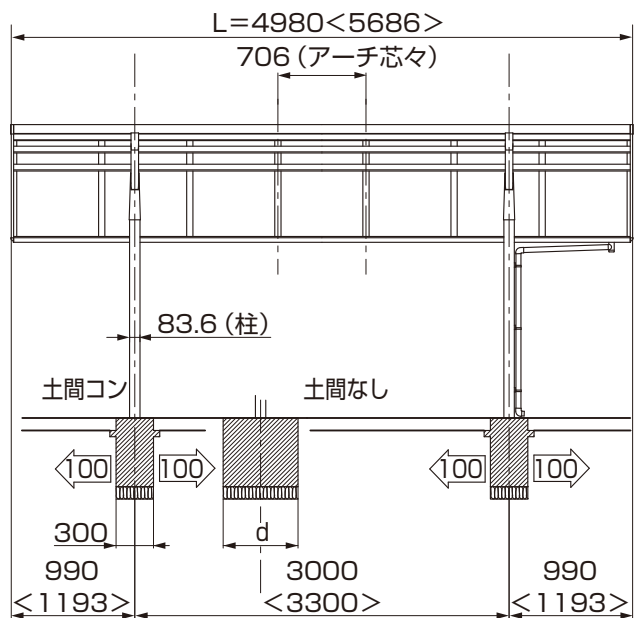
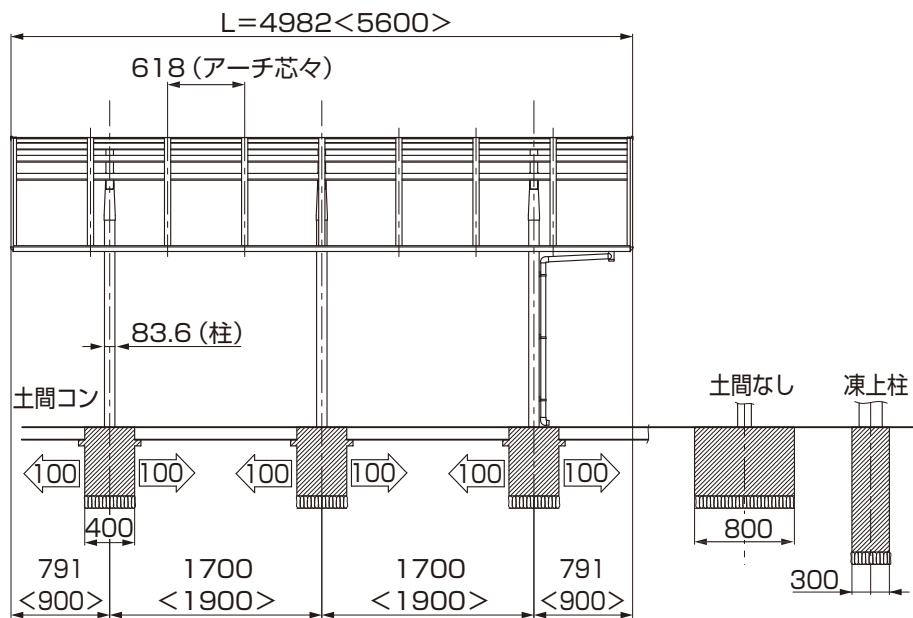


表2-3

サイズ	d
48	600
54	600
60	700

2-4 奥行き50・56タイプ (1500タイプ) ※柱芯々寸法は±100mm以内にしてください。
※〈 〉は奥行き56型を示します。



2-5 奥行き14延長タイプ (600タイプ)

※＜ ＞は奥行き57型を示します。

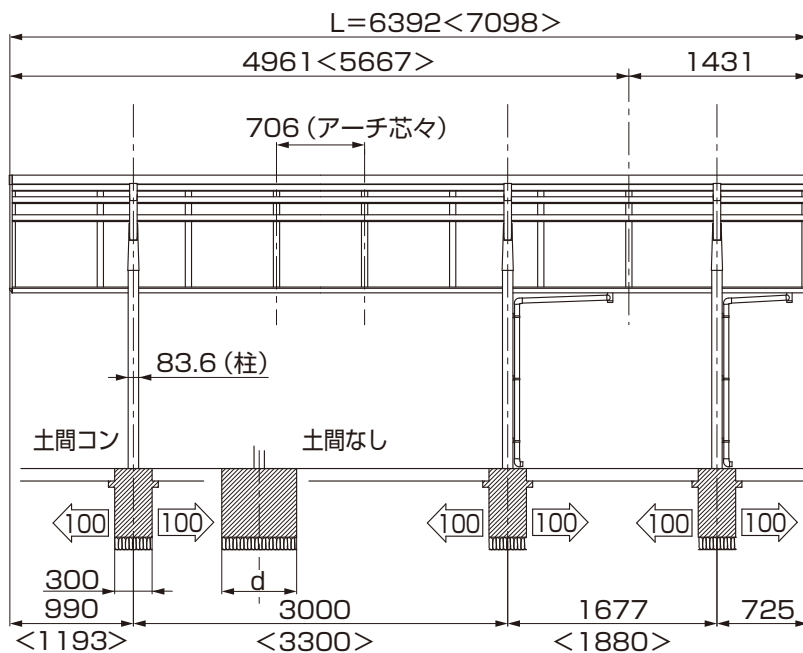
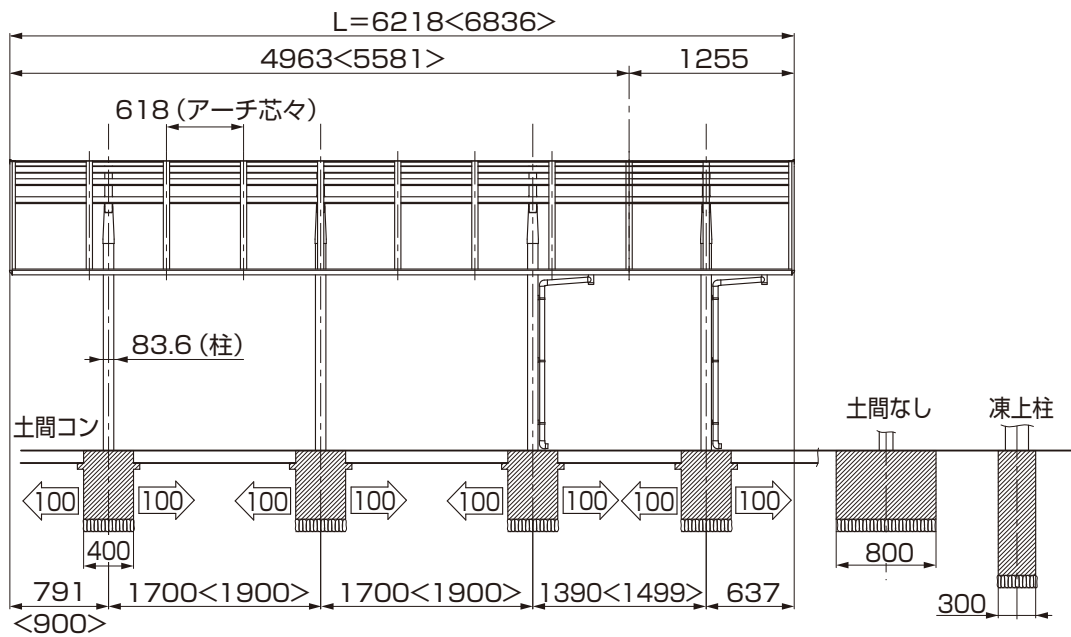


表2-4

サイズ	d
48	600
54	600
60	700

2-6 奥行き12延長タイプ(1500タイプ)

※＜ ＞は奥行き56型を示します。



2. つづき

2-7 奥行き縦連棟タイプ ※柱芯々寸法は±100mm以内にしてください。

(1) 600タイプ ※< >は奥行き57型を示します。

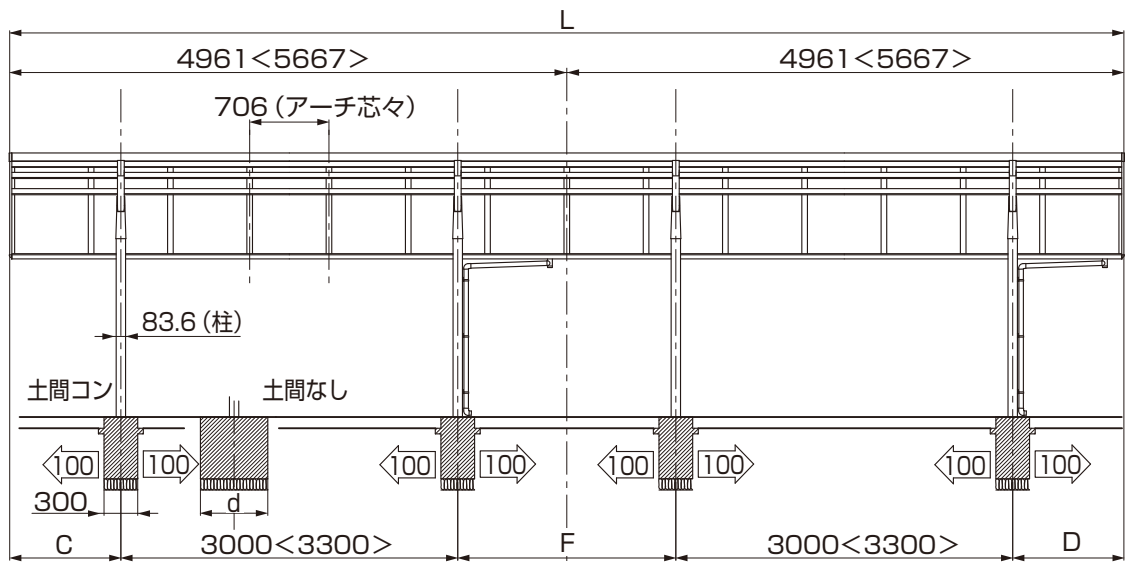


表2-5 寸法表

奥行き	L	F	C	D
50-50	9922	1942	990	990
50-57	10628	2145	990	1193
57-57	11334	2348	1193	1193

表2-6

サイズ	d
48	600
54	600
60	700

(2) 1500タイプ ※< >は奥行き56型を示します。

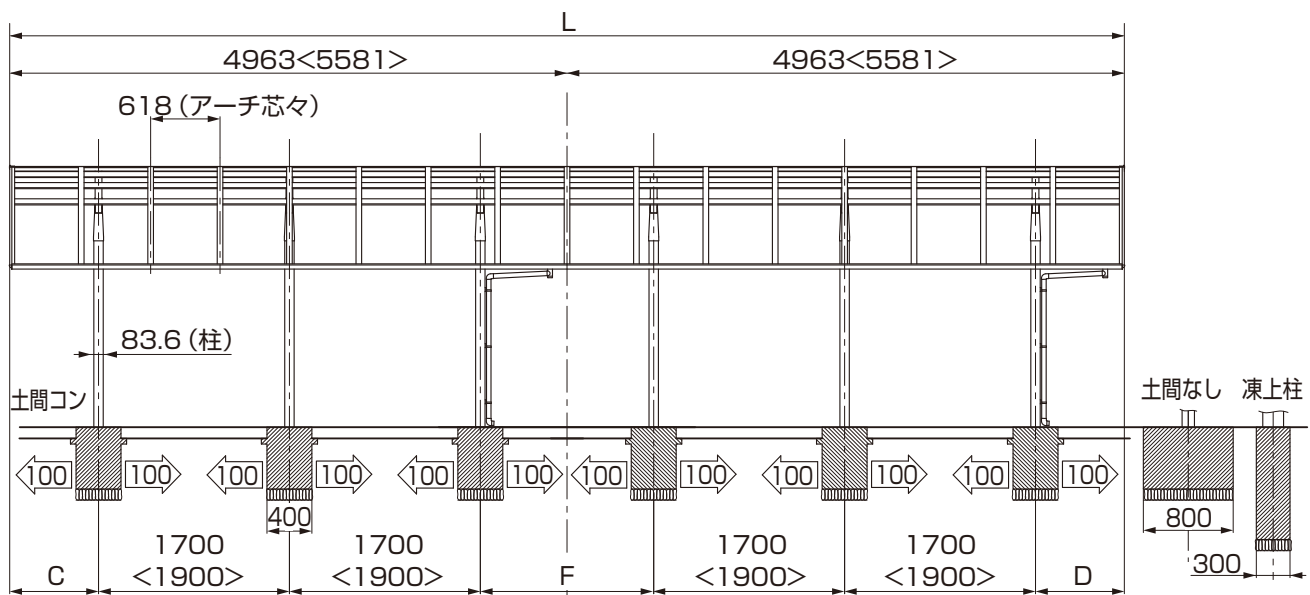


表2-7 寸法表

奥行き	L	F	C	D
50-50	9926	1544	791	791
50-56	10544	1653	791	900
56-56	11162	1762	900	900

3 基本の施工方法

1. 基礎の施工

1-1 基礎位置の墨出し

(1) 600タイプ

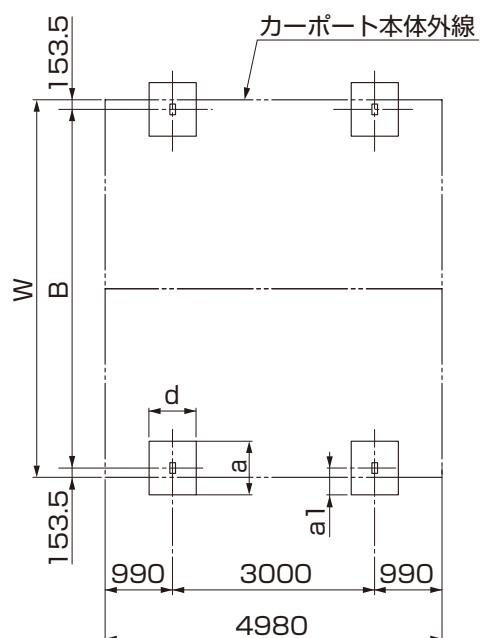


図1-1 50サイズ

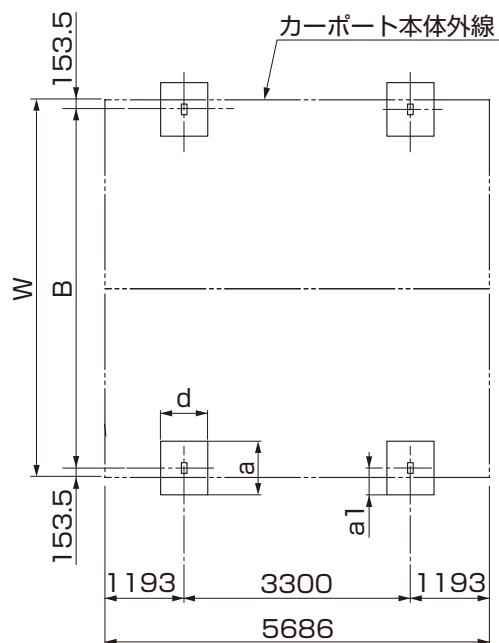


図1-2 57サイズ

表1-1

単位mm

サイズ呼称	W (屋根寸法)	B (柱芯々寸法)	土間なし			土間コンクリート		
			a	a1	d	a	a1	d
48	4826	4519	700	300	600	400	200	300
54	5432	5125	700	300	600	400	200	300
60	6053	5746	800	300	700	500	250	300

①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

⚠ 注意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

🔑 ポイント

- 間口サイズにより基礎穴の大きさが変わります。
- 構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

✎ 補足

●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

1. つづき

(2) 1500タイプ

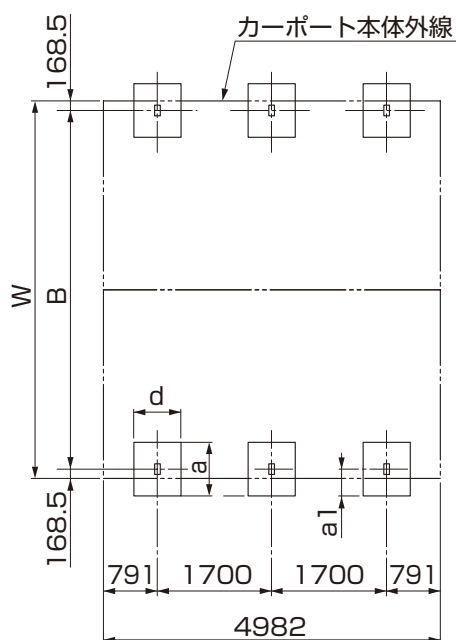


図1-3 50サイズ

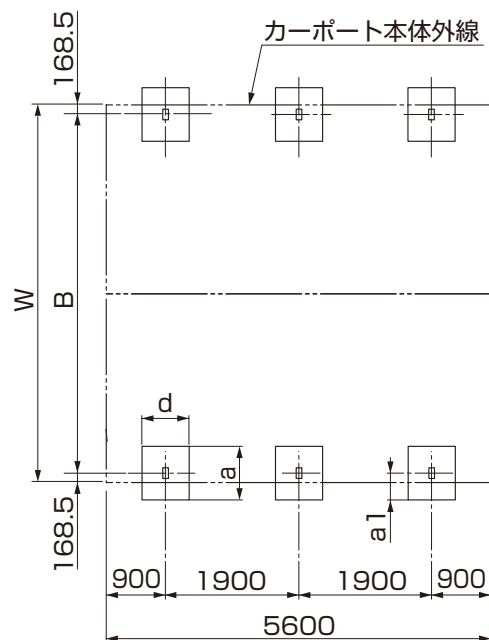


図1-4 56サイズ

表1-2

単位mm

サイズ 呼称	W (屋根寸法)	B (柱芯々寸法)	土間なし			土間コンクリート			凍上柱		
			a	a1	d	a	a1	d	a	a1	d
48	4830	4493	900	300	800	400	200	400	400	200	300
54	5436	5099	900	300	800	400	200	400	400	200	300
60	6058	5721	1000	300	800	500	250	400	400	200	300

①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

⚠ 注意

- 柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

🔑 ポイント

- 間口サイズにより基礎穴の大きさが変わります。
- 構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

📝 補足

- 柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

1-2 基礎寸法

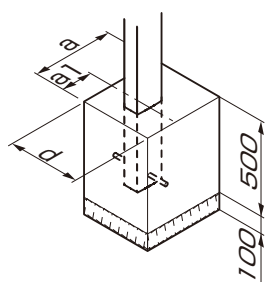


図1-5

土間なし仕様の場合

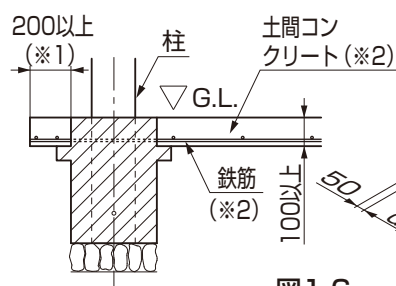


図1-6

土間コンクリート仕様の場合

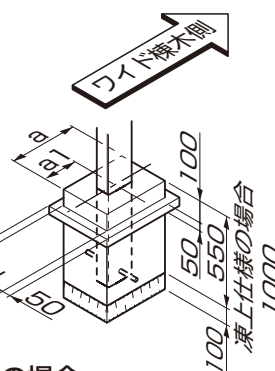


図1-7

凍上仕様の場合

表1-3 600タイプ

サイズ	土間なし			土間コンクリート		
	a	a1	d	a	a1	d
48・54	700	300	600	400	200	300
60	800	300	700	500	250	300

表1-4 1500タイプ

サイズ	土間なし			土間コンクリート		
	a	a1	d	a	a1	d
48・54	900	300	800	400	200	400
60	1000	300	800	500	250	400

ポイント

- 基礎上面と土間コンクリートの縁端距離は200mm以上になるようにしてください。（※1）
- 土間コンクリートには、鉄筋を敷設してください。（※2）
- 構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

2. 柱と梁の取付け

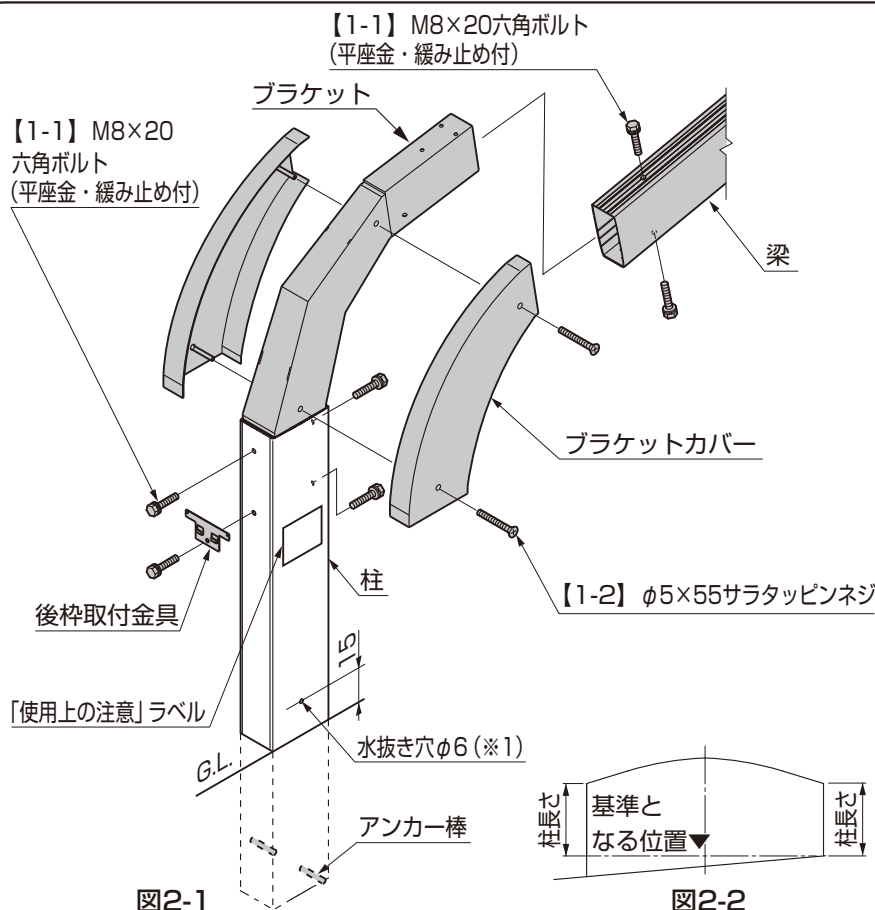


図2-1

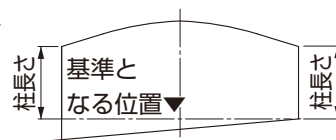


図2-2

- ①柱にアンカー棒を差込んでください。
- ②梁をブラケットに【1-1】で取付けてください。
- ③ブラケットを柱に【1-1】で取付けてください。
- ④ブラケットカバーR、ブラケットカバーLを【1-2】で取付けてください。

注意

- 「使用上の注意」ラベルを貼っている柱に縦樋を取付けると、表示が見えなくなります。縦樋を取付けない側に表示ラベルを向けてください。
- 柱のG.L.付近（地上側）にφ6水抜き穴をあけてください。柱内の水が凍結膨張し、柱が破損するおそれがあります。（※1）

ポイント

- 柱は基準となる位置から同じ高さとしてください。高さが違う場合は、ワイド棟木部に水がたまり、漏水するおそれがあります。（図2-2参照）
- ロング柱を凍上標準柱として使用する場合は、埋込みを1000mmにして施工してください。

3. ワイド棟木・母屋・後枠の取付け

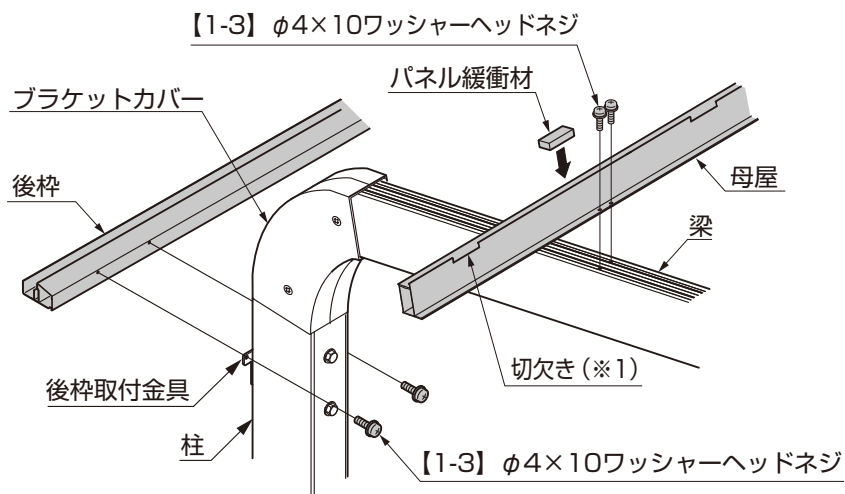


図3-1

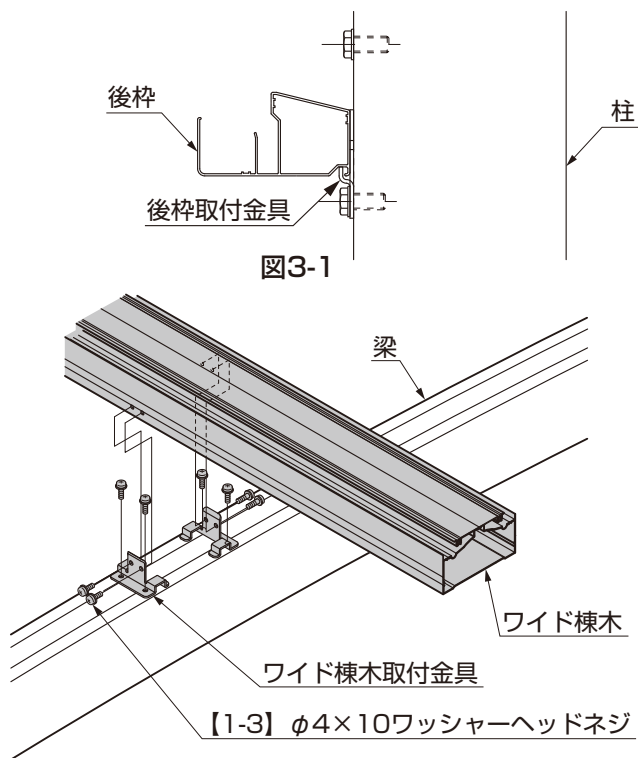


図3-2

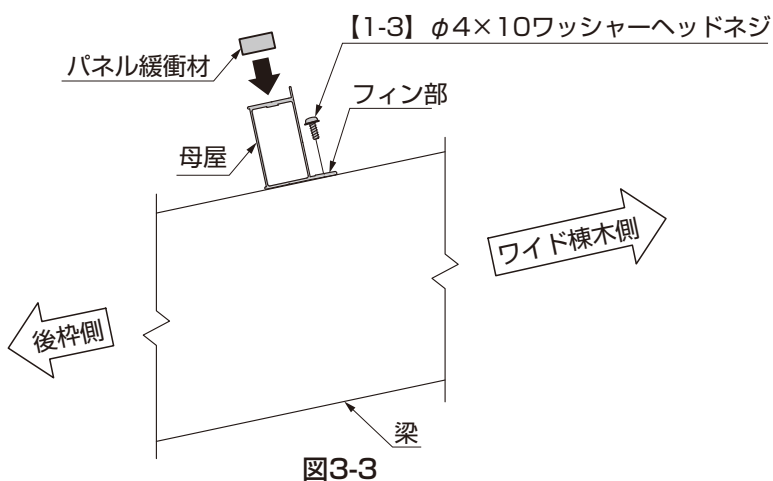


図3-3

①後枠を後枠取付金具に【1-3】で取付けてください。(図3-1参照)

②梁の中央部にワイド棟木取付金具を【1-3】で取付けて、ワイド棟木を【1-3】で固定してください。(図3-2参照)

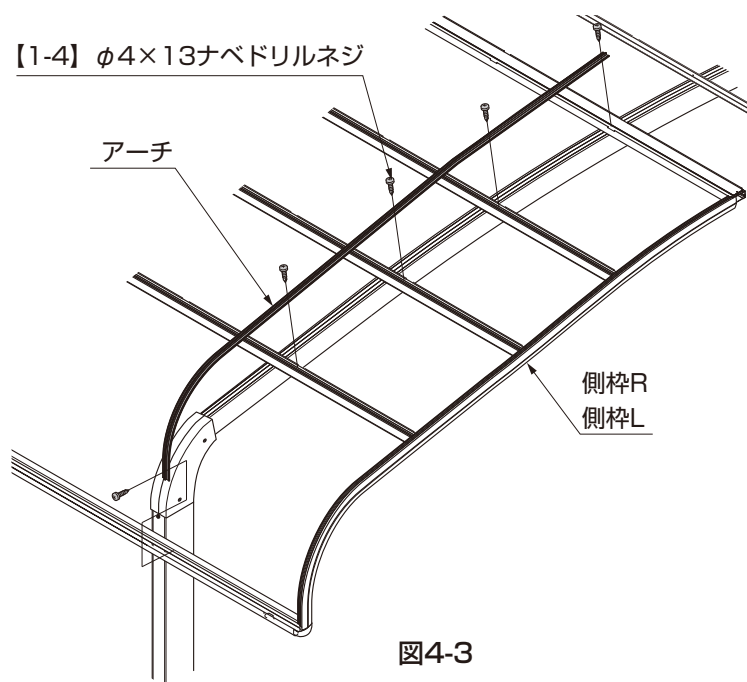
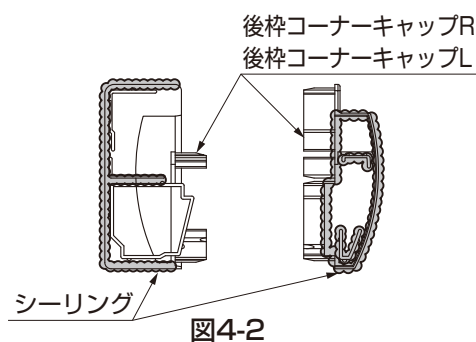
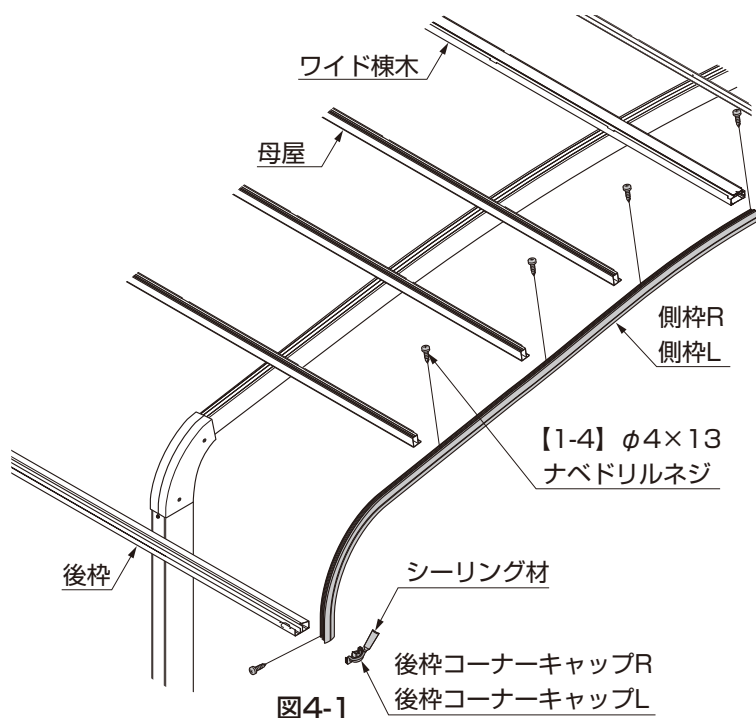
③パネル緩衝材を母屋の切欠きと切欠き(※1)の間に貼付けてください。(図3-1、図3-3参照)

④ワイド棟木側にフィン部を向けて、母屋を梁に【1-3】で取付けてください。(図3-3参照)

ポイント

- 柱を移動した場合は、ワイド棟木・後枠・母屋を梁に合わせて後枠はφ3.5、ワイド棟木はφ3.5、母屋はφ4.5の穴加工を行なってください。
- 既存の加工穴には穴隠しシールを貼ってください。

4. 側枠・アーチの取付け



- ①後枠コーナーキャップR・後枠コーナーキャップLにシーリング材を充てんして、側枠R・側枠Lに取付けてください。(図4-1、図4-2参照)

ポイント

- 側枠R・側枠Lには左右があります。

- ②後枠・母屋・ワイド棟木に側枠R・側枠Lの穴に合わせて【1-4】で取付けてください。(図4-1参照)

- ③アーチの前後を確認して、ワイド棟木・後枠・母屋にアーチの穴に合わせて【1-4】で取付けてください。(図4-3参照)

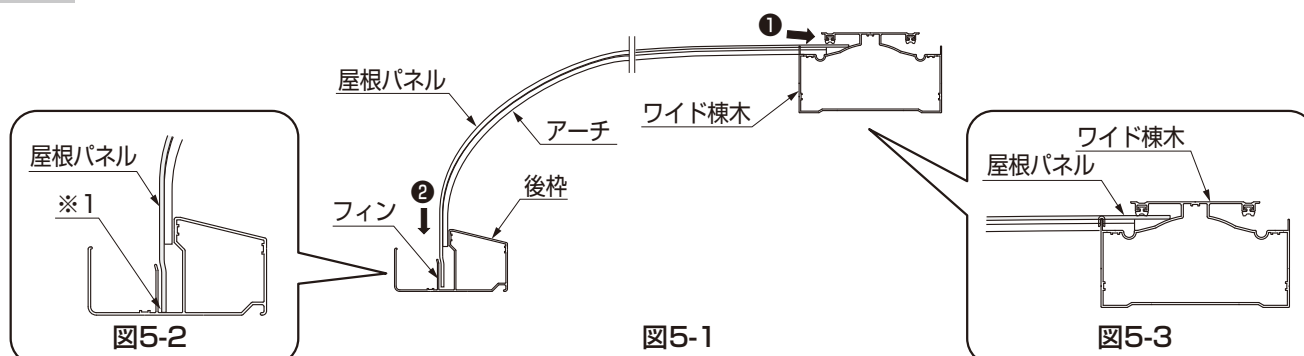
- ④屋根枠まわりの対角・水平および柱の垂直を出してください。

補足

- 母屋・ワイド棟木には加工穴はあいていません。

5. 屋根パネルの取付け

5-1 屋根パネルの取付け



① 屋根パネルをワイド棟木に差込み、後枠のフィンの内側に差込んでください。

ポイント

- 屋根パネルは後枠側に突き当ててください。(※1)
- アーチ部のみ込み寸法は、左右均等にご確認ください。
- 屋根パネルは必ず裏表を確認し、保護シートをはがしてください。

5-2 側枠カバー・アーチカバーの取付け

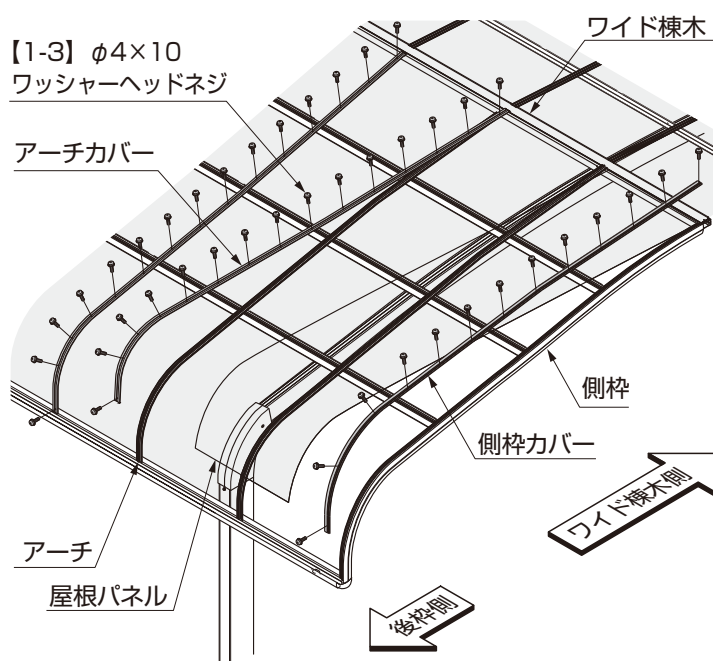


図5-4

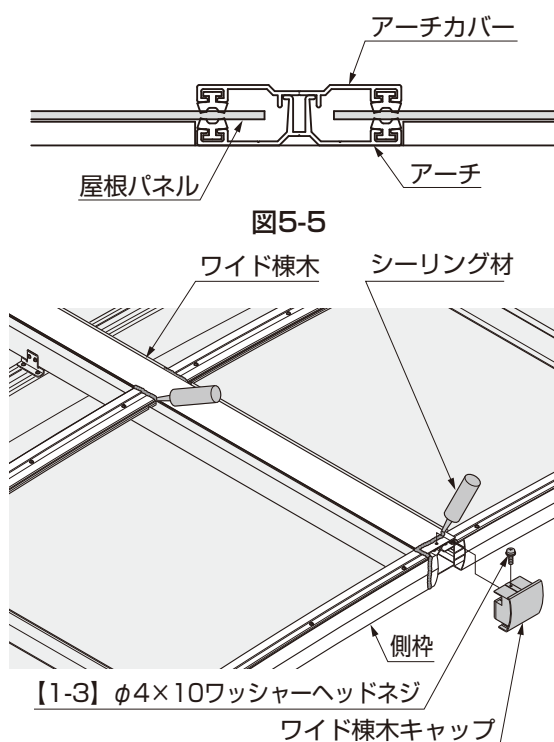


図5-6 シーリング箇所

① アーチカバー・側枠カバーをワイド棟木に突き当てて、ワイド棟木側からアーチ・側枠に【1-3】で取付けてください。(図5-4参照)

ポイント

- アーチとアーチカバーがかみ合っていることを確認してください。(図5-5参照)
- ② アーチカバーとワイド棟木との間と側枠カバーとワイド棟木の間にシーリング材を充てんしてください。(図5-6参照)
- ③ ワイド棟木キャップをワイド棟木に【1-3】で取付けてください。
- ④ ワイド棟木とワイド棟木キャップの間にシーリング材を充てんしてください。(図5-6参照)

5-3 屋根材ホルダーの取付け **オプション**

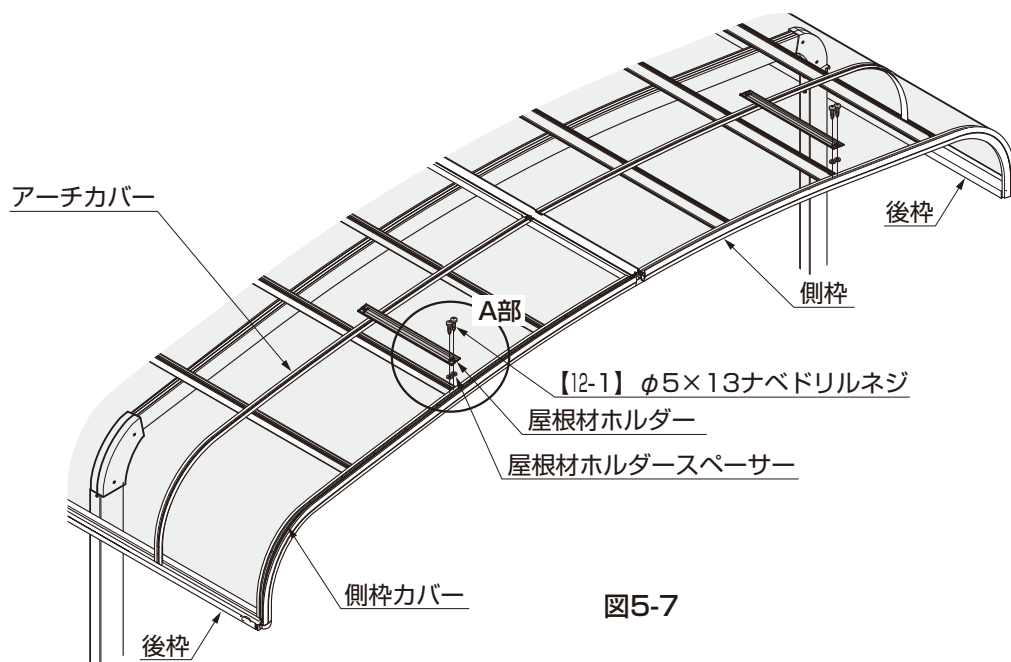


図5-7

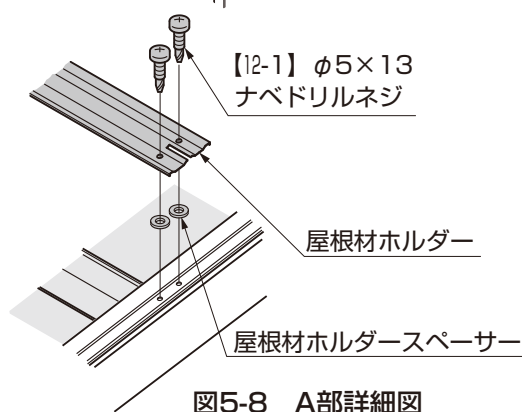


図5-8 A部詳細図

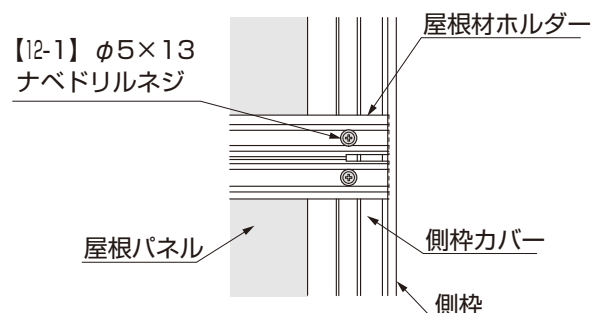


図5-10

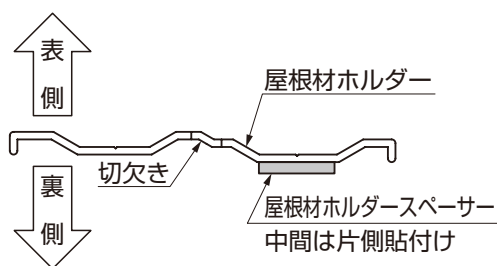


図5-9 屋根材ホルダー断面図

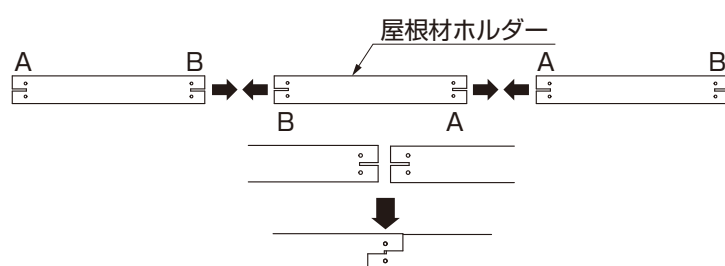


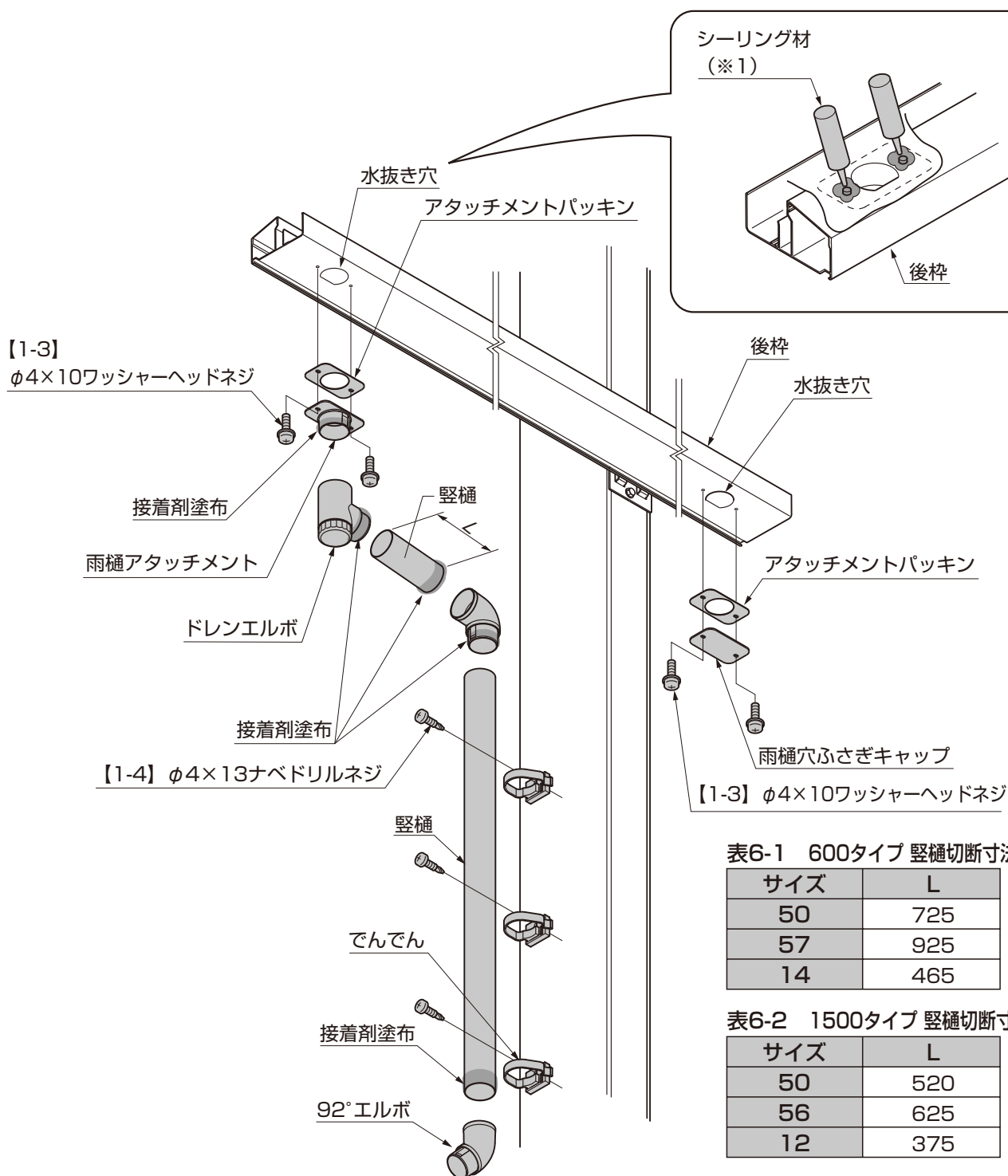
図5-11

①屋根材ホルダーを後枠側から数えて2本目の母屋の真上の位置に【12-1】で取付けてください。(図5-7参照)

ポイント

- 屋根材ホルダー下面に屋根材ホルダースペースを貼付けてください。(端部：図5-8、中間：図5-9参照)
- 側枠カバー側のネジだけを固定して、反対側は次の屋根パネルとアーチカバーを取付けた後で固定してください。(図5-10参照)
- 2本目以後の取付けは、1本目の屋根材ホルダーと反対向きにして、切り込み部分をかみ合わせるように取付けてください。(図5-11参照)

6. 縦樋の取付け



①縦樋を切断してください。(表6-1・表6-2参照)

補足

●柱を移動している場合は、寸法が異なります。

②後枠両端の片方の水抜き穴にアタッチメントパッキン、雨樋アタッチメント、ドレンエルボ、縦樋、92° エルボ、でんでんを接着剤と【1-3】、【1-4】で取付けてください。

③もう一方の水抜き穴に、アタッチメントパッキン、雨樋穴ふさぎキャップを【1-3】で取付けてください。

④ネジ部にシーリングを充てんしてください。(※1)

1. つづき

(3) 奥行き57サイズ+57サイズ

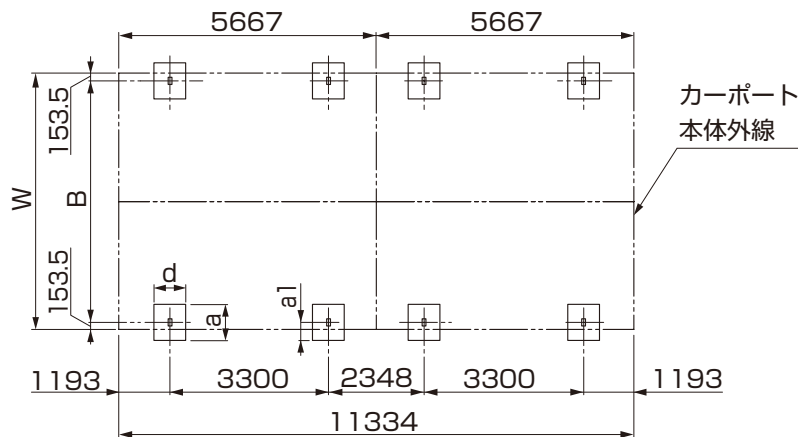


表1-3

サイズ 呼称	W (屋根寸法)	B (柱芯々寸法)	土間なし			土間コンクリート		
			a	a1	d	a	a1	d
48	4826	4519	700	300	600	400	200	300
54	5432	5125	700	300	600	400	200	300
60	6053	5746	800	300	700	500	250	300

① 柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注意

● 柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

● 構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補足

● 基礎構造については「2.基本寸法と各部名称 2.基本寸法」を参照してください。

● 柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

(4) 奥行き50サイズ+14サイズ

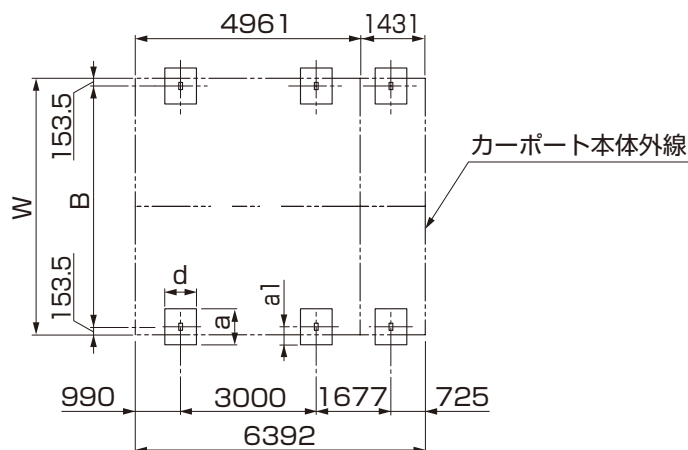


表1-4

サイズ 呼称	W (屋根寸法)	B (柱芯々寸法)	土間なし			土間コンクリート		
			a	a1	d	a	a1	d
48	4826	4519	700	300	600	400	200	300
54	5432	5125	700	300	600	400	200	300
60	6053	5746	800	300	700	500	250	300

① 柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注意

● 柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

● 構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補足

● 基礎構造については「2.基本寸法と各部名称 2.基本寸法」を参照してください。

● 柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

(5) 奥行き57サイズ+14サイズ

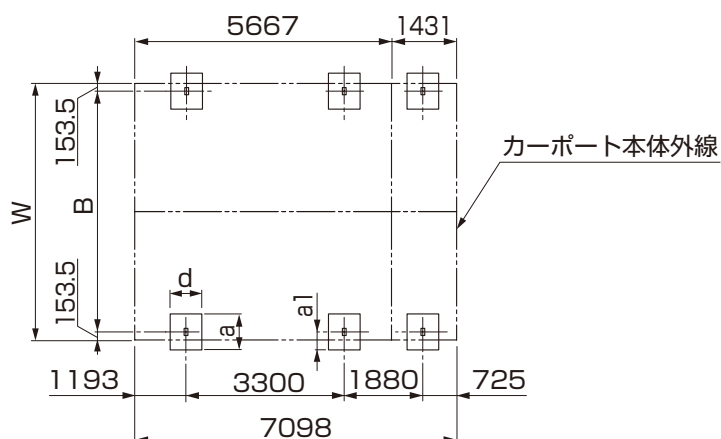


表1-5

サイズ 呼称	W (屋根寸法)	B (柱芯々寸法)	土間なし			土間コンクリート		
			a	a1	d	a	a1	d
48	4826	4519	700	300	600	400	200	300
54	5432	5125	700	300	600	400	200	300
60	6053	5746	800	300	700	500	250	300

①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補足

●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称 2.基本寸法」を参照してください。

●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

1-2 1500タイプ

(1) 奥行き50サイズ+50サイズ

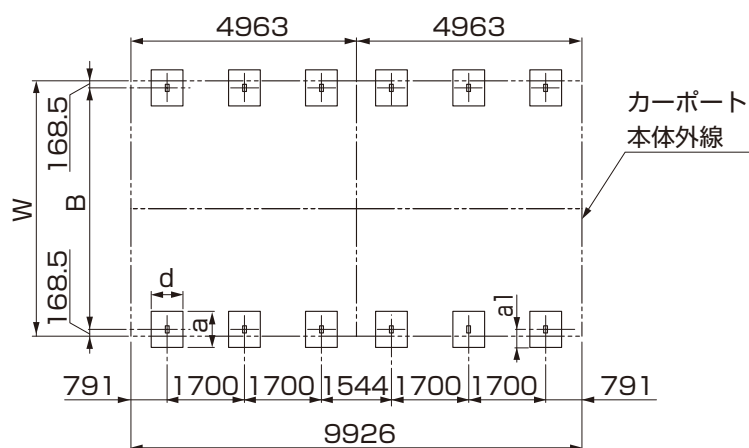


表1-6

サイズ 呼称	W (屋根寸法)	B (柱芯々寸法)	土間なし			土間コンクリート			凍上柱		
			a	a1	d	a	a1	d	a	a1	d
48	4830	4493	900	300	800	400	200	400	400	200	300
54	5436	5099	900	300	800	400	200	400	400	200	300
60	6058	5721	1000	300	800	500	250	400	400	200	300

①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補足

●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称 2.基本寸法」を参照してください。

●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

1. つづき

(2) 奥行き50サイズ+56サイズ

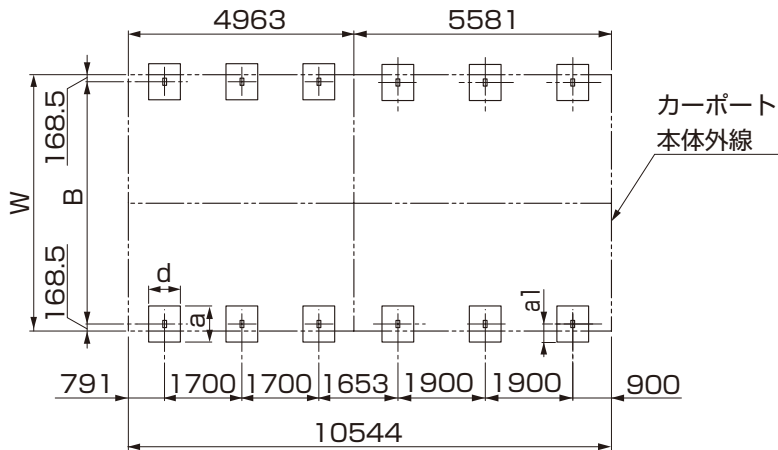


表1-7

サイズ 呼称	W (屋根寸法)	B (柱芯々寸法)	土間なし			土間コンクリート			凍上柱		
			a	a1	d	a	a1	d	a	a1	d
48	4830	4493	900	300	800	400	200	400	400	200	300
54	5436	5099	900	300	800	400	200	400	400	200	300
60	6058	5721	1000	300	800	500	250	400	400	200	300

① 柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注意

● 柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

● 構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補足

● 基礎構造については「2.基本寸法と各部名称 2.基本寸法」を参照してください。

● 柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

(3) 奥行き56サイズ+56サイズ

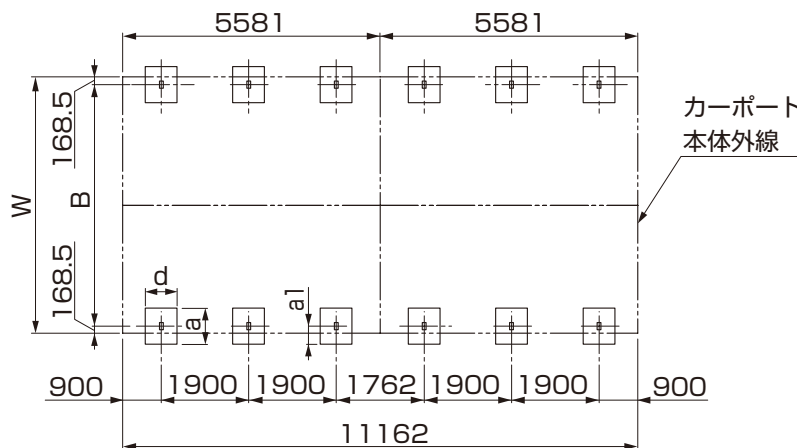


表1-8

サイズ 呼称	W (屋根寸法)	B (柱芯々寸法)	土間なし			土間コンクリート			凍上柱		
			a	a1	d	a	a1	d	a	a1	d
48	4830	4493	900	300	800	400	200	400	400	200	300
54	5436	5099	900	300	800	400	200	400	400	200	300
60	6058	5721	1000	300	800	500	250	400	400	200	300

① 柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

注意

● 柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

ポイント

● 構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

補足

● 基礎構造については「2.基本寸法と各部名称 2.基本寸法」を参照してください。

● 柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

(4) 奥行き50サイズ+12サイズ

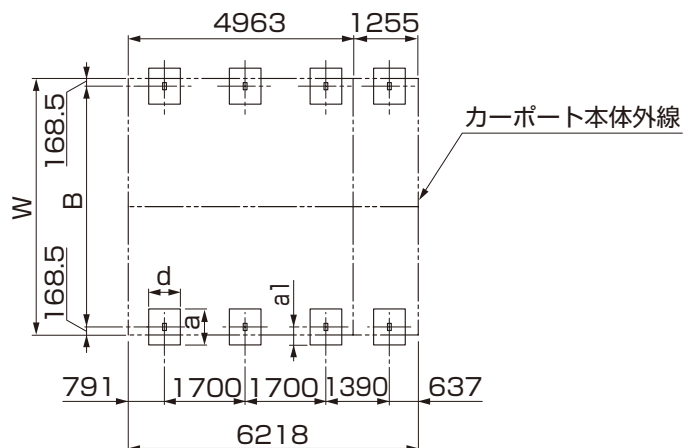


表1-9

サイズ 呼称	W (屋根寸法)	B (柱芯々寸法)	土間なし			土間コンクリート			凍上柱		
			a	a1	d	a	a1	d	a	a1	d
48	4830	4493	900	300	800	400	200	400	400	200	300
54	5436	5099	900	300	800	400	200	400	400	200	300
60	6058	5721	1000	300	800	500	250	400	400	200	300

①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

⚠ 注意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

🔑 ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

✎ 補足

●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称 2.基本寸法」を参照してください。

●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

(5) 奥行き56サイズ+12サイズ

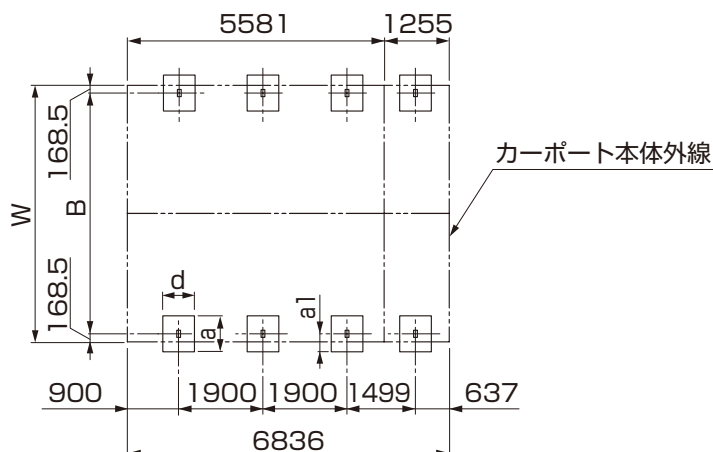


表1-10

サイズ 呼称	W (屋根寸法)	B (柱芯々寸法)	土間なし			土間コンクリート			凍上柱		
			a	a1	d	a	a1	d	a	a1	d
48	4830	4493	900	300	800	400	200	400	400	200	300
54	5436	5099	900	300	800	400	200	400	400	200	300
60	6058	5721	1000	300	800	500	250	400	400	200	300

①柱の埋込み位置を出して、基礎穴を掘ってください。

⚠ 注意

●柱の移動は当社指定範囲内にしてください。

🔑 ポイント

●構造計算書を添付して建築確認申請をおこなっている場合、構造計算書の基礎寸法で施工してください。

✎ 補足

●基礎構造については「2.基本寸法と各部名称 2.基本寸法」を参照してください。

●柱の移動は±100mm以内ですが柱芯々寸法が±100mm以内になるようにしてください。

2. 本体の連結

2-1 連棟部の加工 ※ () 内寸法は、1500用の場合です。

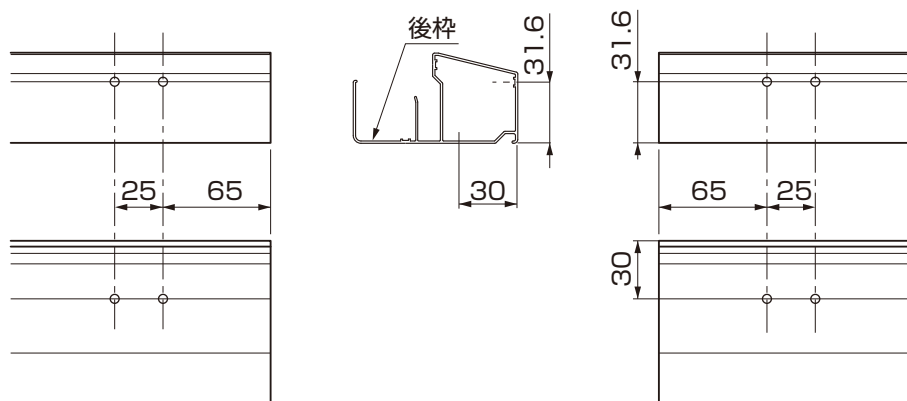


図2-1 後枠の加工

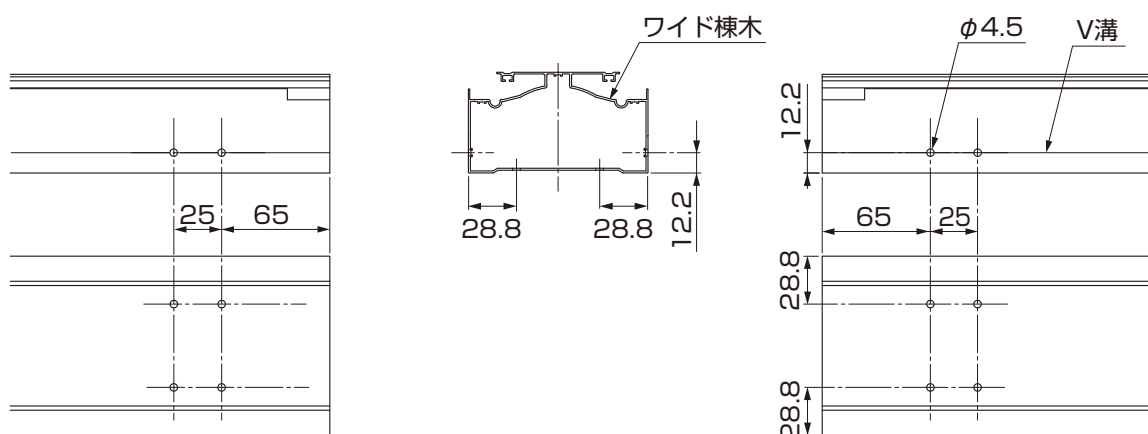


図2-2 ワイド棟木の加工

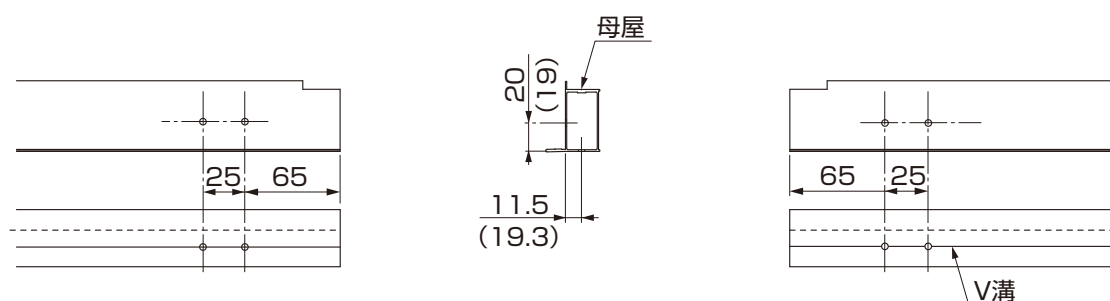


図2-3 母屋の加工

①後枠・ワイド棟木・母屋の連棟側を穴加工してください。(図2-1、図2-2、図2-3参照)

ポイント

●母屋側面の穴加工はフィン側にしてください。

2-2 連棟部の連結

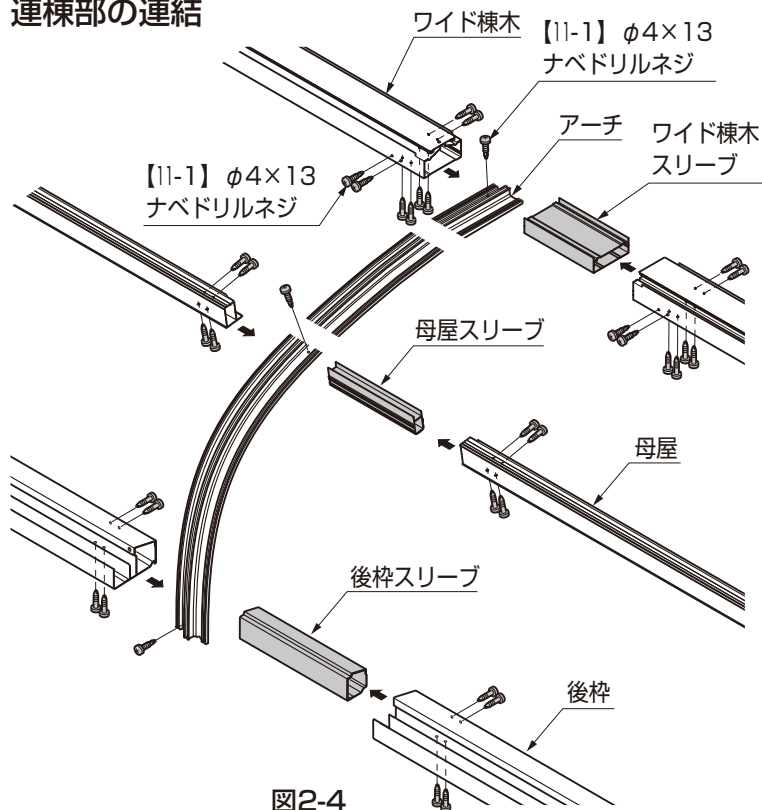


図2-4

- ①ワイド棟木・母屋・後枠にそれぞれワイド棟木スリーブ、母屋スリーブ、後枠スリーブを【11-1】で取付けて連結してください。
- ②全ての【11-1】の回りにシーリング材を充てんしてください。

ポイント

- 連棟部分以外の組立ては、「3.基本の施工方法」を参照してください。

2-3 シーリング処理

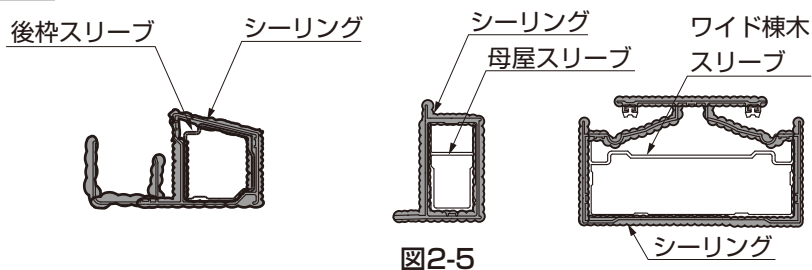


図2-5

- ①連棟部分にシーリング材を充てんしてください。(図2-5参照)
- ②ワイド棟木の接続部分に、ワイド棟木止水パッキンを貼付けてください。(図2-6参照)

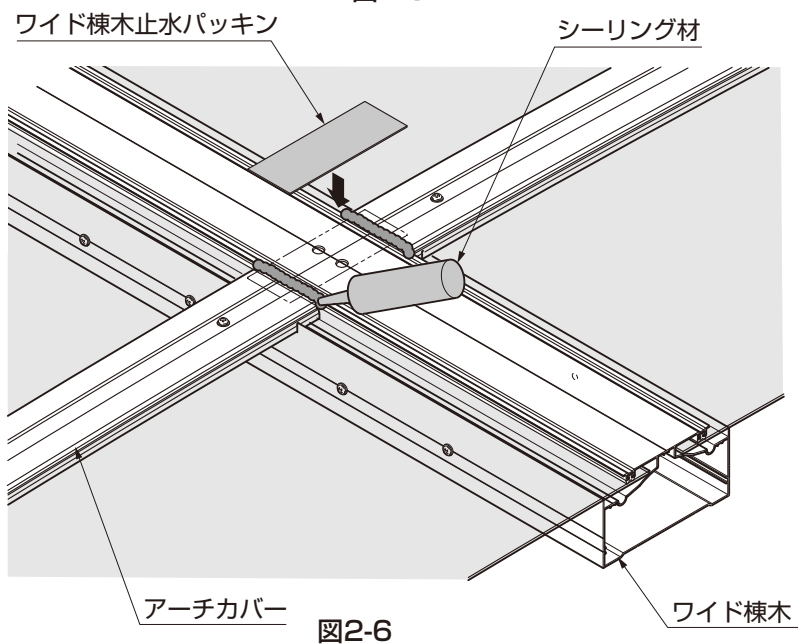


図2-6

3. 落雪カバーの取付け オプション

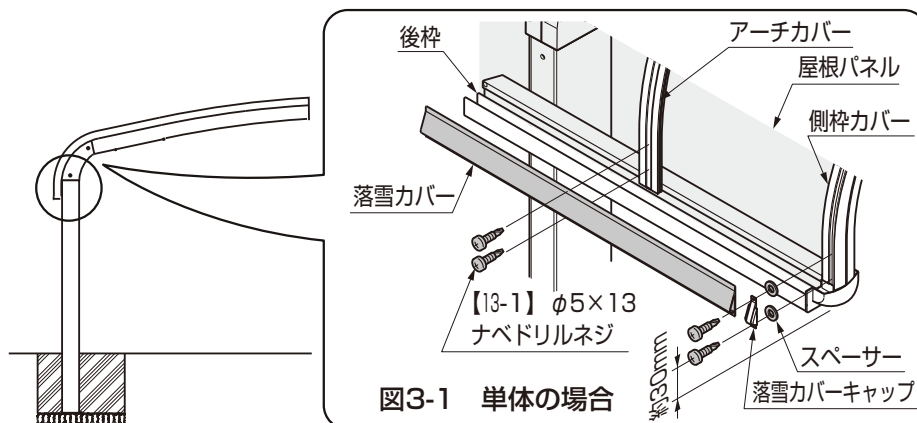


図3-1 単体の場合

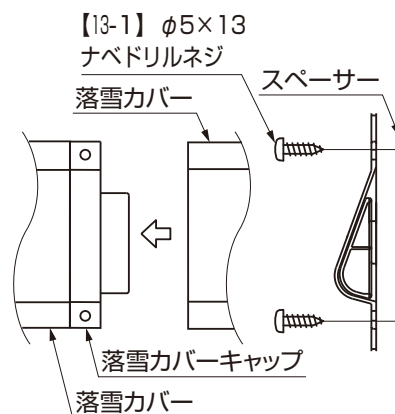


図3-2 連棟する場合

- ①落雪カバーの端部に落雪カバーキャップを取付けてください。
- ②アーチカバーの上に落雪カバーを置き、位置を決めてください。
- ③落雪カバーをアーチカバー、側枠カバーに【13-1】で取付けてください。

補足

- 落雪カバーキャップと側枠カバーのすき間にスペーサーを貼付けてください。(図3-1参照)
- 連棟時は、連棟側的一方のキャップを取り、もう一方のキャップと連結し、アーチカバーのすき間にスペーサーを貼付けてください。(図3-2参照)
- 落雪カバーがアーチカバー取付けネジと干渉する場合は、干渉しないところに取付けてください。